

## ● 使用材料・使用器具

## 使用材料

キクスイ	15kg/缶
プライマースーパーE	
グラナダ弾性	20kg/缶
専用骨材3厘	20kg/紙袋

## 使用器具

計量	秤
基層塗り	リシンガン又はコテ
模様塗り	スタッコガン又はコテ
模様付け	ノコモゴテ(5.0mm)

## ● 標準施工仕様

(23℃、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m <sup>2</sup> )	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
					工程内	工程間	
下塗り	キクスイプライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダ弾性	20kg	0.8~1.0	1	-	6以上	リシンガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ
	清水	吹付け塗り 1~2kg コテ塗り 0~0.5kg					
模様塗り	グラナダ弾性	20kg	3.0~3.5	1	-		スタッコガン 口径:8~10mm 吹圧:0.4~0.6MPa コテ
	専用骨材3厘	10kg					
	清水	0~0.5kg					
パターン 付け	5mmノコ目状刻みのノコモゴテ5、又はノコ目ヘラを使用し、所定の意匠になるようにする。						追っかけ 模様付け ノコモゴテ(5.0mm)
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。						直後又は 乾燥後
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。					24以上	

## ● 標準施工要領

## 1. 下塗り

- ①下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ②下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

## 2. 基層塗り

- ①開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ②主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤を使用する。
- ③基層塗りは、下地がスケないようにリシンガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

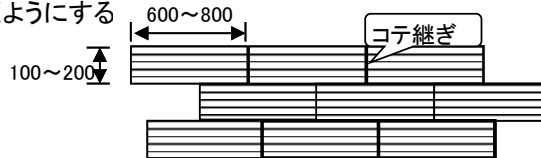
## 3. 模様塗り

- ①出隅、入隅、開口部廻、大面積連続壁で意匠目地を必要とする場合は25mm幅の装飾養生をする。特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようになる。
- ②主材は定められた模様になるように指定された骨材・清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、材料の計量は秤を使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を塗り付ける。

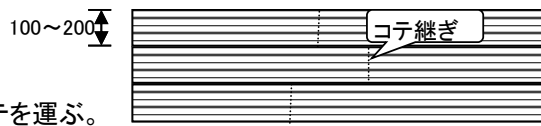
## 4. パターン付け

- ①パターン付けは、5mmキザミのノコモゴテ5を使用する。コテの継ぎ方により仕上がり感が異なるので、あらかじめ設計担当者に確認を行っておくようにする。

- i) ノコ目付けは、横方向とし、且、不連続の馬踏み調とする方法。この方法は、コテの継ぎ目を意匠とし、ムラに見えないようにする技法。丁寧な作業が必要。



- ii) ノコ目付けは、横方向とし、且、不連続だが継ぎ目を目立たなくし、横方向には連続のイメージで仕上げる方法。継ぎ部分が目立たないように丁寧にコテを運ぶ。



- ②継ぎ部分が目立つ場合、串目6コマ刻み程度の小道具でタッチアップして整える。
- ③表面皮張りが早い場合、直射日光など避けて施工する。

## 5. 養生撤去他

- ①養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ②施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。